

令和7年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水稲 】

いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生 (6月4半旬頃) の7~10日前に粒剤施用を行ってください。なお、補植用置き苗はいもち病の発生源となるため、すみやかに除去してください。

【 かき 】

カキノヘタムシガ (カキミガ)

成虫の見取り調査では、本年の越冬世代成虫は5月15日に増加し、22日以降減少する発生活消長を示しました。発蛾最盛期の平年値 (5/16) と比較して、発生量増加日 (5/15) は平年並の発生時期で、発生量は樹あたり1.2頭 (平年1.9頭) と平年よりやや少なくなりました。そのため、防除適期は発生が増加した5月15日の7~14日後である、5月下旬と予測されます。発生が多いほ場ではさらに7~10日後に追加防除を実施してください。

【 果樹 】

果樹カメムシ類 * 病虫害発生予察注意報第2号 (R7.5.23付) 発表

岐阜・西濃、中濃及び東濃地域に設置した予察灯、フェロモントラップへの果樹カメムシ類の誘殺数が、5月第4半旬以降、急増しています。特に、温度及び湿度が高く、風のない夜は、活発に活動します。今後の気象情報には十分注意し、飛来が認められる場合は直ちに防除を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (6月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
水稲	生育(コシヒカリ)								・田植え 5/9 (農業技術センター)
	生育(ハツシモ)			< 田 植 え >					・田植え 6/10予定 (農業技術センター)
	葉 い も ち	やや多				<初発生>			・箱施薬を実施する。
	縞 葉 枯 病	並				<初発生>			・ 縞葉枯病 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。
	ヒメトビウンカ	並		<第1世代成虫>					
	ニカメイガ	少			<越冬世代成虫>				
	防 除 適 期		~ ■葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ						・ ヒメトビウンカ 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。
かき	生育(富有)	並							・開花最盛期 5/19 (平年 5/17:農業技術センター)
	ハマキムシ類	やや多				<第1世代成虫>			・ ハマキムシ類 幼虫発生初期の防除を徹底する。
	カキノヘタムシガ	やや少							・ ミツバチ の導入時期に注意して防除を徹底する。
	フジコナカイガラムシ	少			<第1世代1齢幼虫>				・ フジコナカイガラムシ 虫体に薬液が到達するよう丁寧に散布を行う。
	防 除 適 期		▲ フジコナカイガラムシ						
なし	黒 星 病	並			< 果 実 発 病 最 盛 期 >				・発病が散見されるほ場では確実に防除を実施し、同一系統薬剤の連用は避ける。
	防 除 適 期		黒星病 ▲ ~						
果樹	カメムシ類	多	< 越 冬 世 代 成 虫 >						・夜温が高い場合、突発的にほ場へ飛来する恐れがあるので注意する。
	防 除 適 期								
茶	生育(やぶきた:池田)	並				<二番摘採期>			
	ハマキムシ類	並				<第1世代成虫>			・幼虫発生初期の防除を徹底する。
	チャノホソガ	少		<第1世代成虫>					・ チャノホソガ 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。
	防 除 適 期		▲ハマキムシ類 ▲チャノホソガ						
野菜	コ ナ ガ	やや多							・薬剤抵抗性が付きやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アブラムシ類	やや少							・ アブラムシ類 定植時に粒剤を施用する。
	防 除 適 期								

病害虫名		発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設	トマト	灰色かび病	やや少 調査ほ場で発病が認められる。今後も、曇天が続く場合は発生に注意する。 (発病果率 0.12%)	・発生初期の防除を徹底する。 ・施設内が多湿とにならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。
	トマト	すすかび病	やや少 調査ほ場で発病が認められる。今後も、曇天が続く場合は発生に注意する。 (発病小葉数 1.0葉)	
野菜	キュウリ	べと病	やや少 調査ほ場では発病は認められない。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。 (発病葉率 0.0%)	・ すすかび病 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 ・ うどんこ病 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。 ・使用する薬剤は、FRACコードを参照して同一系統の連用を避ける。
	キュウリ	褐斑病	やや少 調査ほ場では発病は認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。 (発病葉率 0.0%)	
	キュウリ	うどんこ病	やや少 調査ほ場では発病は認められない。引き続き発生に注意する。 (発病葉率 0.0%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

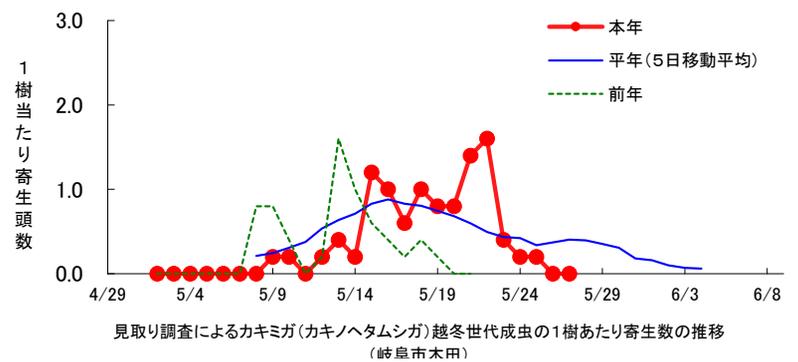
注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

注4) 施設野菜は岐阜、西濃地域の調査結果

カキノヘタムシガ (カキミガ)

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を食害したのち、ヘタ部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると葉液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の越冬世代成虫は5月15日に増加し、5月22日以降減少する発生消長を示しました(右図)。発生量増加時期から予想される防除適期は5月下旬頃となりました。発生が多いほ場では1回目散布から7～10日後に追加防除を実施してください。



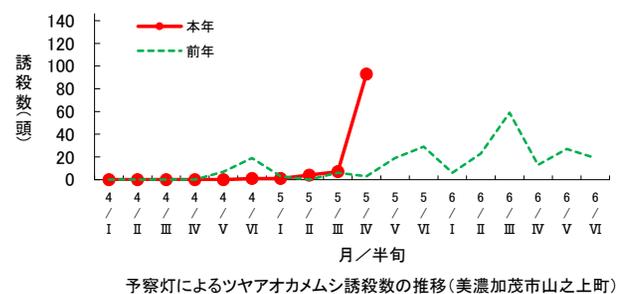
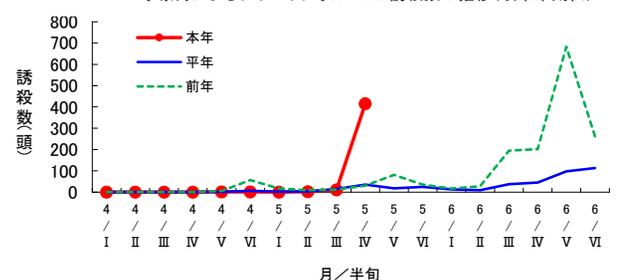
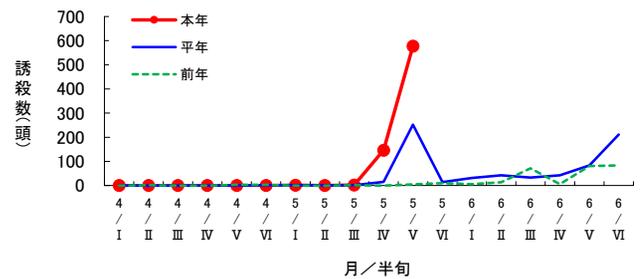
果樹カメムシ類* 病害虫発生予察注意報第2号 (R7.5.23付) 発表

岐阜市及び美濃加茂市の予察灯による果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシ)の誘殺数は、それぞれ5月第4半旬以降急増しました(右図)。

本年の5月中旬におけるサクラ果実の吸汁調査では、岐阜市で吸汁果率62.9%、美濃加茂市で80.0%と果樹園への飛来の目安となる80.0%と同等または近い値となっており、両市で成熟落果が進んでいます。サクラ果実が餌として適さなくなっており、果樹園へ飛来して果実を加害する可能性があります。

一部の果樹園ではすでに被害が確認されており、気温の上昇とともに断続的に飛来し、被害が拡大する可能性があります。

薬剤による防除はナシ、モモ等では袋かけ前、カキでは幼果期の時期が目安となります。特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時(日没後2時間位)に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。



6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方气象台 5月22日発表)

向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されています。期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、期間を通して曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード